

認知症講演会「身近な人が認知症になったら」

愛媛県認知症介護指導者 田中 加代

キーワード: 認知症の基礎知識・コミュニケーションの取り方・
地域の関係性づくりは挨拶から

活動の概要(活動の主体:個人)

【活動目的】

認知症を恐れるのではなく、一人ひとりが認知症について「考える」こと、声かけなど「行動する」ことを生活の中で、意識していただけることで、認知症になっても地域で生活し続けることができる地域づくり。地域全体で「認知症に備える取り組み」

【活動内容】

新居浜市地域包括支援センターが毎年実施している「認知症講演会」にて「身近な人が認知症になったら」をテーマに「耳を傾ける～認知症の基礎知識と接し方～」として講演を実施。

新居浜市では、市民の皆さんに「認知症」を身近なものとして、地域で支える街づくりの一つとして認知症の支援に携わる専門職の講演と、認知症と家族の会の会員家族による講演会を中心に令和2年で3回目となる会を実施している。

活動のきっかけ、背景(指導者としての立場で)

自分自身の認知症介護指導者としての活動は、研修の講師をする程度であった。しかし、認知症介護を学び教育する立場として、認知症の方が暮らしやすい街づくりに何か役に立てないかと日頃より考えていた。所属する法人の地域包括支援センター委託機関アソカ園担当者が、法人には3名もの認知症介護指導者が在籍することもあり、お役に立てることがあるのではないかと情報の提供を行ったことがきっかけとなった。

また、認知症介護指導者という存在を包括支援センター自体でも知らない人が多く何が出来る人?という状態を少しでも解消するきっかけとなればと活動を行った。

活動の経過と成果

【活動の経過】

令和2年度で3回目となる会は「身近な人が認知症になったら」をテーマに開催され、第1部「耳を傾ける～認知症の基礎知識と接し方～」を担当した。第2部は家族の会による体験事例が発表され、身近に感じたり理解が深まることを意識して構成した。

【活動の成果】

113名が参加した今年度は一般市民の参加が半数弱を占めていた。また、参加者アンケートで90%以上が認知症や認知症の人との接し方について理解できたと答えられたことから、地域への認知症の知識の発信として有意義であったと感じている。

今後の展望

認知症の支援チームを構成する際にこうした地域住民の方にもどんどん入って頂くことも重要だと思った。他にも、感染症の関係で講演や研修が難しい場合は、集まる団体や人数、サークルや企業など少人数でも学んでいただける機会があれば、認知症介護指導者として出向いていきたいと感じている。また、同時に現在介護に携わっている介護職やご家族への助言や相談にのるような場所、機会を検討しても良いのではないかと考える。

こちらの事例報告は、「認知症介護指導者養成研修等のアウトカム評価に関する調査研究事業報告書(令和2年度老人保健健康増進等事業)」の巻末資料【認知症介護指導者の活動事例】からの抜粋です。